

がんに関する教育【H28.3 改訂】

小学校指導資料(小学校6年生)

がんについて
もっと知ろう

平成28年3月
堺市教育委員会

はじめに

がんは、昭和56（1981）年以後我が国の死亡原因の第1位であり、統計上では国民の2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで死亡していると推計されています。

このような状況から、がん対策のより一層の推進を図るため、「がん対策基本法」が平成19（2007）年4月に施行され、この基本法に基づき、がん対策を総合的かつ計画的に推進するための「がん対策推進基本計画」が同年6月に策定されました。

本市におきましても、「堺市がん対策推進条例」が平成24年9月議会において議決され、平成25年1月1日に施行されました。

本条例の第7条（5）には、「教育機関におけるがん予防につながる学習の充実」が明記され、子どもの頃から健康的な生活習慣を身に付け、がんに関する知識を深め、がんの予防も含めた健康教育の必要性が謳われています。

がんが国民病と呼ばれるようになった現在、子どもが、親や家族等の近親者のがんを経験することは想像に難くありません。たとえ、規則正しい生活習慣を心がけていても遺伝的な素因や予防が難しい原因により、がんが発症することもあります。子どもたちが小中学校において、がんの正しい知識を学ぶことは、自分はもちろん、近親者や周りの人への理解と適切な対応を身に付けることにつながります。

現在も、小中学校におけるがんに関する教育として、体育や保健体育等の授業において指導がなされていますが、がんを正しく理解することやがんを予防することなど、「がんに関する教育」を今まで以上に推進することが求められています。

教育委員会では、小中学校における健康教育の一環として、「がんに関する教育」指導資料作成委員会を設置し、がんに関する教育を推進するための指導資料（改訂版）を作成して堺市全学校園へ配付しています。

各学校においては、本指導資料を活用し、がんに関する教育の推進に努めていただきますようお願いいたします。

学校教育部長 山之口 公一

もくじ

はじめに

本指導資料の活用にあたっての配慮事項

指導事例

第6学年 体育科指導案（保健領域）

1. 単元名
2. 単元目標
3. 単元指導計画（案）
4. 小単元名
5. 小単元目標（本時の目標）
6. 評価規準
7. 展開

ワークシート（がんについてもっと知ろう）

スライド資料

教師用指導資料集（解説）

がんに関する教育の一層の充実

本指導資料の活用にあたっての配慮事項

○心理的配慮について

家族や身近な人が、がんの治療中であつたり、がんによって亡くなつたりしている子どもへの心理的な配慮が必要です。

がんにかかるのは、誰のせいでも、何かをしたから、あるいはしなかったからなるわけではないことをきちんと知らせ、子どもに自分のせいだと思込ませないようする必要があります。

○小児がんについて

本時の指導は、成人のがんについて学ぶものであり、小児がんについて学ぶものではありません。もし、学級に小児がんの治療中、または既往歴のある児童がいる場合は、指導を行う際に、十分に検討し、当該児童の保護者にも意見を得ておくなどの配慮が必要です。

○生活習慣とがんと関連性について

規則正しい生活習慣によって、将来がんになる可能性を低くすることはできますが、絶対にがんにならないわけではありません。

○がん検診について

がん検診によって、早期にがんを発見することができ、早期の治療によって、がんを治せる可能性が高くなります。ただし、がん検診によってすべてのがんを見つけることができるということではありません。

○喫煙や飲酒について

未成年者の喫煙や飲酒は、法律で禁じられていることを説明するだけでなく、成人になつても喫煙や過度の飲酒を控える気持ちを育てる必要があります。

○放射線について

自然にある放射線やエックス(X)線検査など日常で受ける量であれば、通常は健康への心配はありませんが、放射線を受ける量はできるだけ少なくすることは大切です。

○指導する予防法について

本時で指導するがんの予防法などについては、現状で推奨できる科学的根拠に基づいたものについて示しています。

現在もがんに関する研究は進められており、今後、がんに関連する情報が更新されることが予想されます。そのため、常に正しい情報の収集・活用が大切です。

【指導事例】

第6学年 体育科学習指導案 (保健領域)

1 単元名 病気の予防

2 単元目標

病気の発生原因や予防の方法、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響について理解できるようにする。

3 単元指導計画案(案)【全9時間】

単元名	小単元	主な学習内容	授業時数
1	病気の起こりかた	病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などがかわり合って起こること。	1
2	感染症の予防	インフルエンザ、結核、麻疹、風疹などの感染症を取り上げ、予防には病原体の発生源をなくしたり、体に入ることを防いだり、体の抵抗力を高めておくことが必要であること。	1
3	生活習慣病の予防1	生活習慣病の予防には、調和のとれた食事、適切な運動、休養・睡眠をとることなど、望ましい生活習慣を身につける必要があること。	1
4	生活習慣病の予防2	生活習慣病のうち、むし歯や歯周病の予防には、口の中を清潔にしておくなど、健康によい生活習慣を身につけることが大切なこと。	1
5	喫煙の害と健康	喫煙が呼吸や心臓のはたらきに負担をかけること、受動喫煙により健康被害が生じること、肺がんや心臓病などの病気にかかりやすくなること。	1
6	飲酒の害と健康	飲酒は判断力を鈍らせ、呼吸や心臓への影響があること、また飲酒を長期間続けると肝臓などの病気の原因になること。	1
7	薬物乱用の害と健康	薬物乱用は一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすこと。	1
8	地域の保健活動	地域では、人々の病気を予防するために、健康な生活習慣にかかわる情報提供や予防接種などの活動が行われていること。	1
※9	がんについてもっと知ろう	がんは身近な病気であること、がんについて正しく理解し、その予防について知ること。	1

4 小単元名 「がんについてもっと知ろう」

5 小単元目標(本時の目標)

がんについて正しく理解し、その予防について知る。

6 評価規準

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
・がんについて、資料を見たり、予防の方法について考えたりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。	・がんについて、資料や学習したことをもとに、予防の方法を考えたり、それらを説明したりしている。	・がんという病気やその予防について理解したことを言ったり、書いたりしている。

7 展開

	学習活動	評価(*)と支援(○)	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 本時のめあてを確認する。 「がんについて、知っていることはあるかな？」</p> <p>・がんという病気について知っていることを交流する。</p> <p>・本時のめあてを知る。</p> <p style="text-align: center;">がんとその予防について考えよう。</p> <p>ワークシート</p>	<p>【スライド1・2】</p> <p>○これまでの学習を振り返り、がんの記述があったところを想起するよう助言する。</p> <p>【スライド3】</p>	<p>・個人情報保護の観点から、治療中や亡くなった方の情報については授業内での共有とする。また、発言については、当事者の気持ちを配慮するよう指導する。</p> <p>・がんについて知っていることを自由に発言させる。</p>
展開 30分	<p>2 がんについて正しく理解する。</p> <p>Q1 日本で、“がん”になる人は何人に1人くらいいるのかな？</p>	<p>【スライド4】</p> <p>○児童に問いかけながら一緒に考えるようにして正解を言い、説明する。</p> <p>【スライド5】</p> <p>○2人に1人がかかるという割合を示し、だれでもかかる病気であることを理解させる。</p>	<p>⇒指導資料解説①</p>

	<p>【スライド6】</p> <p>○堺市の主な死因1位ががんであること、3分の1を占めることを確認する。</p>	<p>⇒指導資料解説②</p> <p>・がんになっても治る可能性が年々高くなっていることを伝え、がんになると必ず死ぬ病気であるという誤解を与えないようにする。</p>
<p>Q2 “がん” ってどんな病気だろう？</p>	<p>【スライド7・8】</p> <p>○がん細胞のでき方や増え続けるとがんという病気になることを理解させる。</p>	<p>⇒指導資料解説③</p>
<p>Q3 “がん” は体のどこにできるのかな？</p>	<p>【スライド9・10】</p> <p>○がんは体のどの場所でもできることを理解させる。</p>	<p>⇒指導資料解説④</p>
<p>Q4 健康な人でも体の中に“がん”ができてることがあるのかな？</p>	<p>【スライド11・12】</p> <p>○健康な人の体の中にもできることや自分は健康だと思っても、がんの初期は症状に現れないこともあることを理解させる。</p>	<p>⇒指導資料解説⑤</p> <p>・がんは、日常生活では見つけにくい病気であることを伝える。</p>
<p>3 がんの予防について知る。</p> <p>Q5 “がん” にならない方法はあるのかな？</p> <p>・病気を予防するにはどんな方法があるかを振り返り発表する。</p>	<p>【スライド13】</p> <p>○これまでの学習や自分の経験などから考えるよう助言する。</p> <p>【スライド14】</p> <p>○がんにならない方法はなく、がんにかかりにくくする方法があることを理解させる。</p>	<p>・自分ひとりで考えることが難しい児童には「病気の予防」で学んだ予防法を想起させ、個別に声かけして考えが持てるように支援する。</p>

Q6 “がん”にかかりにくくするには、どんな生活をするといいいかな？

ワークシート

- ・個人で考える。
- ・班で意見を共有し発表する。

【スライド15】

- 児童の意見を板書する。
- がんの予防には、正しい生活習慣など「病気の予防」で学んだ方法と同じであることを理解させる。

【スライド16・17】

- たばこを吸わない人の肺、吸っている人の肺から、たばこの害、受動喫煙について説明する。

【スライド18・19】

- バランスの取れた食生活について説明する。

【スライド20・21】

- 運動の大切さについて説明する。

【スライド22】

- お酒の飲みすぎは、健康を害することを説明する。

【スライド23】

- 日常の過ごし方が、今後の健康状態を左右することを理解させる。

【スライド24・25】

- がんは、早く見つけると殆んど治すことができる病気であることを理解させる。
- *がんという病気について関心をもち、自分なりに答えを考え、学習活動に進んで取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】

Q7 “がん”は、治る病気なのかな？

⇒指導資料解説⑥

- ・未成年の喫煙、飲酒は法律で禁じられていることを確認するとともに、成人になっても控えることが大切であることを説明する。

⇒指導資料解説⑦

- ・「家での7つのやくそく」を配付し、関連する項目を確認する。

⇒指導資料解説⑧

- ・がんは、早期発見、早期治療によって殆んど治る病気であることを押さえる。

	<p>Q8 “がん”を見つける方法はあるのかな？</p>	<p>【スライド26・27】 ○がん検診を定期的に受けることが、がんを早期に発見しやすくすることを理解させる。</p> <p>【スライド28】 ○堺市が行っている「がん検診」の種類・場所・費用などを理解させる。</p> <p>【スライド29・30】 ○子宮頸がんは若年層にも多くあることを理解させる。</p>	<p>⇒指導資料解説⑨ ・別紙資料を配付する。 ・保健センターが各区に設置されていることを確認する。</p> <p>⇒指導資料解説⑩ ・子宮頸がん予防ワクチンの接種について正しい認識をもたせる。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>4 がんを予防するためにできることを考え、発表する。</p> <p>Q9 “がん”を予防するために自分ができることは何だろう？</p> <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える。 ・班で意見を共有し発表する。 <p>5 本時の学習内容をまとめる。</p> <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を出し合い、まとめを行う。 ・学習したことをふり返る。 	<p>【スライド31】 ○学習してきたことをもとに、自分や家族、身近な人たちの生活を振り返り、生活に活かせることを想起させる。 ○児童の意見を板書する。 *資料や学習したことなどをもとに、予防の方法を考えたり、それらを説明したりしている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>【スライド32～34】 ○がんを予防するには、規則正しい生活を送ることや定期的ながん検診を受診するなど、自分自身の心構えが大切であることを理解させる。 *がんについて正しく理解し、がんを予防するために必要なことについて言ったり、書いたりしている。</p> <p>【知識・理解】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や身近な人が、がんの治療中、または「がん」により亡くなっている児童が、心身の不調を訴えていないかなど十分に注意する。 ・家庭でも話し合うことを勧め、がん検診や予防法について普及啓発する。

がんについてもっと知ろう

6年 組 名前 _____

めあて

1. がんにかかりにくくするには、どんな生活をするといいいかな？

病気の予防で
学習したこと
と同じところ
はあるかな？

2. がんを予防するために、自分ができるとは何だろう。

自分や身近な
人のがんを予
防するにはど
んなことがで
きるかな。

3. まとめ

- (1) 日本人の () 人に1人が生涯しょうがいのうちがんにかかる可能性がある。
- (2) がん細胞は、だれの体にも発生する。
- (3) がんにかかりにくい () を身につけよう。
 - ・ () はすわない。
 - ・ () のとれた食生活を送ろう。
 - ・ 毎日、運動をしよう。
 - ・ () は飲みすぎない。
- (4) 定期的に () を受ける。 ← 早期 () 、早期 ()

4. ふり返り

.....

.....

がんに関する教育の一層の充実

○「命の大切さ」について学ぶ道徳等との関連を図る。

核家族化の影響により、現代の子どもたちは、身内の死に遭遇する機会が少なく、死の捉え方も個人で大きく異なります。

この指導事例では、早期にがんを発見し、早期に治療を開始することで治癒率があがることやがんイコール死ではないことを取り上げています。

しかし、残念ながら、3人に1人ががんで亡くなるという現実があり、病気の知識だけでなく命と向き合うような内容を指導することも場合によっては必要となります。

小児がんについても、十分な配慮は必要ですが、正しい理解とともに命の大切さにつながる授業を実施することも大切です。

命あるものは死を免れないという自然の摂理とともに命の大切さや死の尊厳など、生と死を自分のものとして考える時間を学年に応じてもつことが必要です。

本学習は、がんについて正しく理解し、その予防について学習することをねらいとしました。

今後は、道徳の時間等を活用し、命の大切さについて学習することで本学習を充実させることが重要です。本市作成の小学校、中学校に配布している「道徳未来をひらく」や文部科学省作成の「私たちの道徳」等、生命の尊重を扱った資料を有効に活用し、がんに関する教育の効果的な指導に努めていただきますようお願いいたします。

「がんに関する教育」指導資料作成委員会

《委員》

委員長	学校教育部長	山之口	公一
委員	学校教育部副理事 (企画・調整担当)	田所	明子
委員	健康医療推進課参事 (健康施策調整・がん対策推進担当)	梶山	直美
委員	教育政策課長	小須田	教一
委員	保健給食課長	井上	富士雄
委員	教務課参事 (特別支援教育担当)	後藤	由枝
委員	生徒指導課長	江戸	善信

《指導資料作業部会委員》

事務局	保健給食課主任指導主事	三木	大輔
事務局	教育センター主任指導主事	杉本	光枝
事務局	教育政策課指導主事	三好	由紀
事務局	生徒指導課指導主事	服部	倫子

《意見をいただいた学識経験者》

独立行政法人労働者健康福祉機構	大阪労災病院		
	副院長 消化器内科部長	辻井	正彦
独立行政法人堺市立病院機構	堺市立総合医療センター		
	副院長 診療局局长 臨床教育支援センター長	大里	浩樹
独立行政法人堺市立病院機構	堺市立総合医療センター		
	大腸肛門外科部長 がんセンター長	辻江	正樹

—参考・引用文献—

「がんを防ぐための新12か条」	公益財団法人がん研究振興財団
「がんの統計 '05」	公益財団法人がん研究振興財団
平成26年人口動態調査結果	
堺市がん対策推進条例	
「がん情報サービス ganjoho.jp」	国立がん研究センター がん対策情報センター

がんに関する教育【H28.3改訂】

平成28年3月発行

小学校指導資料「がんについてもっと知ろう」

発行 堺市教育委員会

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

TEL 072-228-7436（学校教育部）

FAX 072-228-7421